



通信

2026年 1月号

# エプロン

2026年 1月15日発行  
発行責任者 猪狩 英則  
〒177-0041 練馬区石神井町 8-53-24  
[TEL:6915-9315](tel:0369159315) FAX:6915-9316  
E-mail :  
[actepu@oak.ocn.ne.jp](mailto:actepu@oak.ocn.ne.jp)  
HP :  
<http://npo-epuron.org/>



\*\*\*\*\*



本年が皆様には変わりのない、健やかな日々をお過ごし頂ける年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

おかげさまでエプロンは、昨年も大過なく営業することが出来ました。

支えてくださる皆様には感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。

我が国の状況は世界に「さきがけ」で少子高齢化問題に直面しているのが現状です。この課題は社会保障制度のみならず、教育制度、日本経済、とにかく日本社会全てに影響します。もはや先送りでもやり過ごすのではなく、問題を直視し、「満点の解決」に至らずとも、「少しでも改善」する局面に来ていると言えます。

その局面打開方法の一つにテクノロジーの進化、生成 AI 技術があります。生成 AI とは、過去の膨大なデータを深層学習し蓄積し、答えに結びつく要素を関係度が高い順に最適化された文章や画像などで提案してくれるものです。人間の提案力をはるかに凌駕する提案力で、その具体的方策が今年 NTT データライフデザインから提供されます。法人向けの新サービス「ケア ラ ケア」です。これは介護保険 25 年のデータ蓄積から生成 AI 技術を用い、働きながら介護するワーキングケアラーを効率的にサポートする仕組みで、今までにはなかったサービスです。このテクノロジーの進化が、今後、身体的なケアができる「介護ロボット」へ進展するのは必定でしょう。

しかしながら、いくら AI が良い提案をしてくるとはいえ、介護を必要とする人に身体的にも、精神的にも接するのは私たち介護職です。

私たちエプロンのスタッフは「心のこもったケア」ができます。「心のこもったケア」で地元地域、介護福祉業界に今以上に「存在感」を出したいと思っています。エプロン創立 32 年。「おせっかい」と表現されるほど親身なケアを実践してきたわたしたちです。

「企業は人なり」です。その「人」でエプロンはアピールしていきます。





エプロンのメンバー構成にも高齢化・人材不足問題はあります。それは避けられません。避けて通ることができなければどうするか。やはり問題を直視します。直視しながら、自分たちの変化・世の中の変化に対応していきます。その心の底にはわたしたちの「理念」を持って。2026 年もこの「理念」を持って活動してゆく所存です。どうぞ支えてくださる皆様にはわたしたちを見守って頂けるようお願い申し上げます。

P.S. 昨年初夏にホームページをリニューアルしました。これも変化の一環です。ホームページの閲覧数・ご寄付も増えました。頻繁に更新し、今後内容も充実させていきます。下記にホームページの QR コードを掲示しますので、ぜひ見てください！ また忌憚のないご意見をお寄せください！

2026 年 1 月

認定 NPO 法人アクト練馬たすけあいワーカーズ エプロン  
理事長 猪狩 英則



## 認定 NPO 法人 エプロンへの賛助・ご寄付のお願い

エプロンは2014年に認定 NPO 法人となりました。認定 NPO 法人への賛助会費・寄付は税制優遇の対象となります。(エプロンが発行する領収書が必要です)

エプロンでは皆さまからの賛助会費・ご寄付を地域活動(地域の居場所事業・地域に向けたイベントなど)に使わせていただいております。

賛助会費は1口 1,000 円で3口以上をお願いしています。

(ご寄付くださる場合、認定 NPO 継続のために

3,000 円以上の寄付をお願いしています。)

地域を豊かにする活動に皆さまのご協力をお願いいたします。

\*エプロンに 3,000 円ご寄付くださった場合

①所得税の控除

$(3,000 \text{ 円} - 2,000 \text{ 円}) \times 40\% = 400 \text{ 円}$

②地方税の控除

$(3,000 \text{ 円} - 2,000 \text{ 円}) \times 10\% = 100 \text{ 円}$

① + ② = 500 円

確定申告された場合、500 円が還付されます

### お振込先

金融機関名：ゆうちょ銀行

口座番号：00150-1-605960

口座名義：NPO 練馬たすけあいワーカーズエプロン

### HP からはこちら



編集後記：近年、年賀状じまいをする方が増え、年賀状を送り合う風習が廃れつつあります。メールなどの電子メッセージで新年の挨拶を送り合う事でお財布にも優しくはありますが、年々減っていく年賀状に少し寂しさを感じるようになってきました。たまには知人同士でメールではなく手紙のやり取りをするのもいいかもしれませんね (U)